

社団法人私立大学情報教育協会
平成 21 年度第 5 回 CCC 社会学グループ運営委員会議事録

- I. 日時：平成 21 年 11 月 10 日(火)午後 3 時から 4 時 30 分まで
II. 場所：私情協事務局会議室
III. 出席者： 土屋委員、津田委員、奥村委員
事務局： 井端事務局長、森下主幹、山野上
IV. 検討事項

1. 社会学教育における学士力の策定について

前回作成した社会学の学士力について、サイバーFD 研究員の意見を反映させて社会学教育における学士力内容の確定について検討した。

【到達目標】 1

- ・コアカリキュラムのイメージに社会問題の社会学、ジェンダー論を追加、理論社会学を外した。
- ・到達度を改定した。
 - ① 社会学がなにを問題として発見し、研究してきたかの蓄積を理解する。
 - ② 「あたりまえ」の現実を疑問視し、そこで不可視化されている現象を問題として認識する姿勢を身につける。
 - ③ なにが社会問題でありうるのかについての討論を行い、それに関する仮説および研究方法を構築する。

【到達目標】 2

- ・コアカリキュラムのイメージ、ジェンダー論を到達目標 1 に移した。

【到達目標】 3

- ・コアカリキュラムのイメージ、家族社会学、宗教社会学、文化社会学を歴史社会学にし、マス・コミュニケーション論をメディア論などに改定した。

【到達目標】 4

- ・コアカリキュラムのイメージにフィールドワークなどを追加した。

【到達目標】 5

- ・コアカリキュラムのイメージ、国際社会学を国際関係論に改定した。
- ・到達度の表現を以下のように改定した。
 - ① 社会の現状をもとに、将来の社会を構想することができる。
 - ② 構想を踏まえて調査・分析を行い、その結果から問題の解決策を導くことができる。
 - ③ 研究の成果を広く社会に発信する方法を身につけている。

社会学学士力案

平成 21 年 11 月 10 日

【到達目標】

1. 社会における様々な問題に関心を持つとともに、通常は見過ごされている現象を社会的な問題として発見する視点を持つことができる。

【コアカリキュラムのイメージ】

社会学原論、社会学史、理論社会学、社会学研究法、演習など

【到達度】

- ④ 社会学でこれまで何が問題とされ、どのような視点で研究されてきたかについて理解できる。
- ⑤ 「当たり前」とされている現実を改めて疑問視し、見過ごされている現象を問題として認識する姿勢を身につけている。
- ⑥ 社会的な問題になり得る事象について、適切なアプローチ方法を検討することができる。

【測定方法】

- ①は、筆記試験や小レポートなどにより理解度を確認する。
- ②と③は、具体的なテーマをめぐるディベート、グループディスカッションなどを通じて確認する。また、①から③は、卒業論文、卒論報告会、合評会などを通じても確認する。

【到達目標】

2. 社会秩序を形成・存続・変容させる日常の営みについて、基礎的な理論を踏まえて理解できる。

【コアカリキュラムのイメージ】

アイデンティティ論、コミュニケーション論、エスノメソドロジー、ジェンダー論、差別・逸脱の社会学など

【到達度】

- ① 人間の自我やアイデンティティがコミュニケーションを通じて形成される過程を理解できる。
- ② 相互行為やコミュニケーションによって秩序が形成・存続・変容する仕組みを理解できる。
- ③ 社会秩序のもつ権力性と、秩序からの逸脱のもつ問題性を把握できる。

【測定方法】

- ①から③は、筆記試験、論述試験、レポートなどにより確認する。

【到達目標】

3. 現代社会の成り立ちと変動を産業化、都市化、情報化といった歴史的な枠組みから捉え、社会現象をこれらとの関連において理解することができる。

【コアカリキュラムのイメージ】

産業社会学、都市社会学、社会変動論、現代社会論、家族社会学、宗教社会学、文化社会学、情報社会論、メディア論など

【到達度】

- ① 社会の構成要素とその機能の関連を構造的に把握する理論的な枠組みを持つことができる。
- ② 現代の社会現象を産業化、都市化、情報化といった歴史的変動のなかで理解できる。
- ③ 「ミクロ」な現象を「マクロ」な構造変動につなげる社会学的想像力を身につけている。

【測定方法】

- ①から③は、筆記試験、論述試験、レポートなどにより確認する。

【到達目標】

4. 社会的な問題に対し、現場の視点に基づいた実証的な調査によってデータを収集し、根拠のある分析をすることができる。

【コアカリキュラムのイメージ】

社会調査法、社会調査実習、社会統計学、多変量解析、フィールドワークなど

【到達度】

- ① ある社会問題・社会現象について、実証的な方法による調査計画の立て方を身につけている。
- ② 量的調査、質的調査の基本的な方法論に基づいた調査・分析能力を身につけている。
- ③ 社会調査の調査倫理を身につけ、フィールドとの適切な関係を作ることができる。

【測定方法】

- ①と②は、筆記試験により基礎的な知識やスキルを確認する。
①から③は、モデルおよび作業仮説に基づいて計画・実施された調査の報告書により確認する。

【到達目標】

5. 社会のあり方についてヴィジョンを持ち、社会的な問題の解決に向けた提案を行うことができる。

【コアカリキュラムのイメージ】

環境社会学、福祉社会学、国際社会学、社会運動論、社会政策論など

【到達度】

- ④ 社会の現状をもとに、将来の社会を構想することができる。
- ⑤ 構想を踏まえて調査・分析を行い、その結果から問題の解決策を導くことができる。
- ⑥ 研究の成果を広く社会に発信する方法を身につけている。

【到達度の測定方法】

- ①から③は、論述試験、卒業論文、卒論報告会、合評会などにより確認する。